

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成29年8月9日

【四半期会計期間】 第94期第1四半期(自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日)

【会社名】 太平洋工業株式会社

【英訳名】 PACIFIC INDUSTRIAL CO., LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 小川 信也

【本店の所在の場所】 岐阜県大垣市久徳町100番地

【電話番号】 大垣(0584)93-0117

【事務連絡者氏名】 経理部長 渡辺 智

【最寄りの連絡場所】 岐阜県大垣市久徳町100番地

【電話番号】 大垣(0584)93-0117

【事務連絡者氏名】 経理部長 渡辺 智

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

株式会社名古屋証券取引所
(名古屋市中区栄三丁目8番20号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第93期 第1四半期 連結累計期間	第94期 第1四半期 連結累計期間	第93期
会計期間	自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日	自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日	自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日
売上高 (百万円)	24,660	26,844	103,669
経常利益 (百万円)	1,918	2,384	9,957
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (百万円)	1,280	1,687	7,524
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	△3,705	1,123	7,719
純資産額 (百万円)	68,766	84,764	84,266
総資産額 (百万円)	126,750	146,046	140,869
1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	23.70	28.37	138.08
潜在株式調整後 1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	21.14	27.87	124.19
自己資本比率 (%)	53.6	57.4	59.2

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ（当社および当社の関係会社）において営まれている事業の内容に重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、財政状態、経営成績およびキャッシュ・フローの状況の異常な変動等、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について重要な変更はありません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第1四半期連結累計期間（平成29年4月1日～平成29年6月30日）におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善が持続し、緩やかな回復基調で推移しました。一方、海外においては、米国・欧州の経済は緩やかに回復が継続し、中国経済の成長ペースに持ち直しがみられるものの、保護主義の台頭等、世界経済の先行きは不透明な状況が継続しております。

このような中、当社グループの主要事業分野であります自動車関連業界におきましては、主要顧客の自動車生産台数は、日本、米国および中国において、総じて前年同期並みに推移しました。

この結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は、新規売上の獲得に加え、円安による為替換算影響もあり、268億44百万円（前年同期比8.9%増）となりました。利益面では、売上増に伴う変動費の増加や、戦略的な設備投資による減価償却費の増加等により、営業利益は19億15百万円（前年同期比5.2%減）、経常利益は主に為替差益の影響により、23億84百万円（前年同期比24.3%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は16億87百万円（前年同期比31.9%増）となりました。

セグメント別の業績は、次のとおりであります。

（プレス・樹脂製品事業）

主要顧客の自動車生産台数は、日本、米国および中国ともに前年同期並みで推移しましたが、新規製品の拡販が寄与し、当事業全体の売上高は186億95百万円（前年同期比10.7%増）となりました。利益面では、売上増に伴う変動費の増加や、減価償却費の増加により、営業利益は4億58百万円（前年同期比20.2%減）となりました。

（バルブ製品事業）

タイヤバルブ製品の販売が比較的順調に推移したことに加え、制御機器製品や鍛圧製品の販売物量の増加により、当事業全体の売上高は81億13百万円（前年同期比4.8%増）となりました。利益面では、減価償却費の増加がありましたものの、営業利益は14億57百万円（前年同期比0.1%増）となりました。

（その他）

その他は主に情報関連事業等のサービス事業から成っており、売上高は35百万円（前年同期比42.5%増）、営業損失が12百万円（前年同期は営業損失13百万円）となりました。

なお、セグメント別の金額は、セグメント間取引の消去後の数値であります。

(2) 財政状態に関する分析

当第1四半期連結会計期間末の資産合計は1,460億46百万円となり、前連結会計年度末と比較して51億76百万円の増加となりました。

資産の部では、流動資産は437億99百万円となり、前連結会計年度末と比較して22億40百万円の増加となりました。これは主に、受取手形及び売掛金が8億46百万円減少した一方、現金及び預金が29億63百万円増加したことによるものであります。

固定資産は1,022億46百万円となり、前連結会計年度末と比較して29億36百万円の増加となりました。これは主に、有形固定資産が28億72百万円増加したことによるものであります。

負債の部では、流動負債は304億57百万円となり、前連結会計年度末と比較して5億66百万円の増加となりました。これは主に、賞与引当金が7億9百万円減少した一方、未払金が11億6百万円増加したことによるものであります。

固定負債は308億23百万円となり、前連結会計年度末と比較して41億10百万円の増加となりました。これは主に、長期借入金が45億61百万円増加したことによるものであります。

純資産の部は、為替換算調整勘定が5億61百万円減少した一方、利益剰余金が7億91百万円増加したことなどにより、前連結会計年度末から4億98百万円増加し847億64百万円となりました。

以上の結果、自己資本比率は57.4%となり、前連結会計年度末と比較して、1.7ポイント減少しました。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループの事業上および財務上の対処すべき課題に重要な変更および新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間の研究開発費の総額は、2億47百万円であります。

なお、当第1四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	90,000,000
計	90,000,000

② 【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成29年6月30日)	提出日現在発行数(株) (平成29年8月9日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	60,660,947	60,687,647	東京証券取引所 名古屋証券取引所 (以上市場第一部)	単元株式数は 100株で あります。
計	60,660,947	60,687,647	—	—

(注) 提出日現在発行数には、平成29年8月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使（転換社債型新株予約権付社債の権利行使を含む。）により発行された株式数は、含まれておりません。

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成29年4月1日～ 平成29年6月30日 (注)1	324,873	60,660,947	146	7,023	146	7,279

(注) 1 転換社債型新株予約権付社債の権利行使による増加であります。

2 平成29年7月1日から平成29年7月31日までの間に、転換社債型新株予約権付社債の権利行使により、発行済株式総数が26,700株、資本金および資本準備金がそれぞれ12百万円増加しております。

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(平成29年3月31日)に基づく株主名簿による記載をしております。

① 【発行済株式】

平成29年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 551,200	—	—
完全議決権株式(その他)	普通株式 59,760,400	597,604	—
単元未満株式	普通株式 24,474	—	—
発行済株式総数	60,336,074	—	—
総株主の議決権	—	597,604	—

② 【自己株式等】

平成29年6月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合(%)
(自己保有株式) 太平洋工業株式会社	岐阜県大垣市久徳町100番地	551,200	—	551,200	0.91
計	—	551,200	—	551,200	0.91

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間(平成29年4月1日から平成29年6月30日まで)および第1四半期連結累計期間(平成29年4月1日から平成29年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツにより四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	13,737	16,701
受取手形及び売掛金	16,257	15,411
商品及び製品	4,008	4,249
仕掛品	2,210	2,304
原材料及び貯蔵品	1,773	2,020
その他	3,604	3,152
貸倒引当金	△32	△39
流動資産合計	41,559	43,799
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	17,664	17,886
機械装置及び運搬具（純額）	24,948	24,747
工具、器具及び備品（純額）	5,971	5,290
土地	5,867	5,856
リース資産（純額）	398	397
建設仮勘定	10,554	14,100
有形固定資産合計	65,405	68,278
無形固定資産	994	968
投資その他の資産		
投資有価証券	26,230	26,236
その他	6,684	6,768
貸倒引当金	△4	△4
投資その他の資産合計	32,909	32,999
固定資産合計	99,310	102,246
資産合計	140,869	146,046

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年 3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年 6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	7,161	7,071
電子記録債務	6,584	6,904
短期借入金	3,920	3,907
1年内返済予定の長期借入金	1,751	1,776
未払金	3,879	4,986
未払法人税等	1,475	788
賞与引当金	1,444	734
役員賞与引当金	63	13
その他	3,608	4,273
流動負債合計	29,890	30,457
固定負債		
転換社債型新株予約権付社債	885	593
長期借入金	17,934	22,495
役員退職慰労引当金	211	208
退職給付に係る負債	151	210
その他	7,531	7,315
固定負債合計	26,713	30,823
負債合計	56,603	61,281
純資産の部		
株主資本		
資本金	6,877	7,023
資本剰余金	7,187	7,333
利益剰余金	55,686	56,477
自己株式	△283	△283
株主資本合計	69,467	70,550
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	11,481	11,448
為替換算調整勘定	2,040	1,479
退職給付に係る調整累計額	374	411
その他の包括利益累計額合計	13,897	13,338
新株予約権	201	201
非支配株主持分	699	673
純資産合計	84,266	84,764
負債純資産合計	140,869	146,046

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)
売上高	24,660	26,844
売上原価	20,680	22,860
売上総利益	3,980	3,984
販売費及び一般管理費	1,959	2,069
営業利益	2,020	1,915
営業外収益		
受取利息	11	23
受取配当金	249	254
持分法による投資利益	174	136
為替差益	-	37
その他	72	65
営業外収益合計	508	517
営業外費用		
支払利息	36	48
為替差損	569	-
その他	4	0
営業外費用合計	611	48
経常利益	1,918	2,384
特別損失		
固定資産除売却損	72	19
特別損失合計	72	19
税金等調整前四半期純利益	1,846	2,364
法人税等	568	678
四半期純利益	1,277	1,686
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△2	△1
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,280	1,687

【四半期連結包括利益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)
四半期純利益	1,277	1,686
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△2,056	△42
為替換算調整勘定	△2,775	△533
退職給付に係る調整額	22	36
持分法適用会社に対する持分相当額	△173	△23
その他の包括利益合計	△4,983	△563
四半期包括利益	△3,705	1,123
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△3,658	1,129
非支配株主に係る四半期包括利益	△47	△6

【注記事項】

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日)
減価償却費	2,048百万円	2,358百万円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成28年6月18日 定時株主総会	普通株式	762	14	平成28年3月31日	平成28年6月20日	利益剰余金

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日
後となるもの

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成29年6月17日 定時株主総会	普通株式	896	15	平成29年3月31日	平成29年6月19日	利益剰余金

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日
後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

項目	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注)3
	プレス・ 樹脂 製品事業	バルブ 製品事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	16,895	7,740	24,635	24	24,660	—	24,660
セグメント間の 内部売上高又は振替高	—	—	—	88	88	△88	—
計	16,895	7,740	24,635	113	24,749	△88	24,660
セグメント利益又は セグメント損失(△)	574	1,455	2,029	△13	2,016	4	2,020

(注)1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、情報・サービス事業等であります。

2 セグメント利益又はセグメント損失(△)の調整額4百万円は、セグメント間取引消去の金額であります。

3 セグメント利益又はセグメント損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第1四半期連結累計期間(自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

項目	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注)3
	プレス・ 樹脂 製品事業	バルブ 製品事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	18,695	8,113	26,809	35	26,844	—	26,844
セグメント間の 内部売上高又は振替高	—	—	—	88	88	△88	—
計	18,695	8,113	26,809	124	26,933	△88	26,844
セグメント利益又は セグメント損失(△)	458	1,457	1,915	△12	1,902	12	1,915

(注)1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、情報・サービス事業等であります。

2 セグメント利益又はセグメント損失(△)の調整額12百万円は、セグメント間取引消去の金額であります。

3 セグメント利益又はセグメント損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(1 株当たり情報)

1 株当たり四半期純利益および算定上の基礎ならびに潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益および算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第 1 四半期連結累計期間 (自 平成28年 4 月 1 日 至 平成28年 6 月30日)	当第 1 四半期連結累計期間 (自 平成29年 4 月 1 日 至 平成29年 6 月30日)
(1) 1 株当たり四半期純利益	23円70銭	28円37銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益(百万円)	1,280	1,687
普通株主に帰属しない金額(百万円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益 (百万円)	1,280	1,687
普通株式の期中平均株式数(千株)	54,023	59,498
(2) 潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益	21円14銭	27円87銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益調整額(百万円)	—	—
普通株式増加数(千株)	6,533	1,075
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後 1 株当たり 四半期純利益の算定に含めなかった潜在株式で、前連結 会計年度末から重要な変動があったものの概要	—	—

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成29年8月8日

太平洋工業株式会社
取締役会御中

有限責任監査法人 トー マ ツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 大 中 康 宏 ⑨

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 矢 野 直 ⑨

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている太平洋工業株式会社の平成29年4月1日から平成30年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（平成29年4月1日から平成29年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成29年4月1日から平成29年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、太平洋工業株式会社及び連結子会社の平成29年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。